

氏名	陳 博 明
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 983 号
学位授与の日付	昭和53年 9 月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	慢性骨髓性白血病の免疫学的研究 第1編 細胞性免疫の検討 第2編 体液性免疫の検討
論文審査委員	教授 妹尾佐知丸 教授 大藤 眞 教授 長島秀夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

第1編：慢性骨髓性白血病（CML）における細胞性免疫の関与を解明する目的で，CML患者21例を対象としてin vivoではPPD, Candida, DNCBなどによる皮膚反応を，in vitroではMIF試験をそれぞれ施行した。その結果PPD, Candida, DNCBなどの皮膚反応の陽性率は健康人対照に比し，いずれも低値を示した。PPD反応陽性率の変動を臨床病期別にみると治療前にはやや低値，寛解期には上昇，急性転化期には著明な低値を示した。又寛解期のMIF試験は陽性率も高値を示した。PPD反応とMIF反応との間には有意の相関性が認められた。以上により未治療または増悪時におけるCMLの細胞免疫能は健康人対照に比しやや低下傾向を示しているが，寛解時には恢復傾向を示すこと，その変動と臨床経過との間に密接な相関関係が存在するものと考えられる。

第2編：CMLにおける体液性免疫の関与を解析する目的でCML患者24例を対象として，血清蛋白 γ -globulin 分画と免疫グロブリン，Immune Adherence Hemagglutination Test（IAHA）とLymphocytotoxicity Test を施行した。血清蛋白 γ -globulin 分画および免疫グロブリン量の平均値はいずれも正常人に比し有意差は認められなかったが，寛解期におけるIgG およびIgM が増悪期に比しやや高値を示した。IAHAについては慢性期の一部の症例で陽性を示したが急性転化例については全例陰性であった。又Lymphocytotoxicity Test も70%陽性率が認められた。以上の結果を総括すると，CMLの体液性免疫能は細胞性免疫能に比し比較的正常に近く保持されているが，急性転化時には低下するに至るものと考えられる。

論文審査の結果の要旨

本研究は従来あまり行はれていない慢性骨髄性白血病（CML）における細胞性及び体液性免疫の関係を研究したものであるが，CML患者20例余について先づPPD反応，カンヂダ皮内反応DNCB皮膚反応及びMIF試験を行い，ついで血清蛋白分画の観察，immune adherence hemagglutination test 及びLymphocytotoxicity testを行い，CMLの患者では細胞性免疫及び体液性免疫共に緩解期には正常に近いが，急性転化時には著明に低下することを明らかにしたもので価値ある業績と認める。

よって，研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。